



# 福岡女子大学 地域連携 センター NEWS

福岡女子大学地域連携センターの2022年度活動内容を報告します

No.12





# 創立100周年と 「大学の中に街ができる」

理事長・学長 向井 剛

社会との連携をめざして、福岡女子大学（福女大）が地域社会と協働する姿を記録した「地域連携センターニュース No.12（2022年度）」をお届けいたします。

福女大は、今年、創立100周年を迎えます。この間、一貫して高度女性人材の育成に努めてまいりました。時代とともに、大学像も刻々と変化してきました。<学生と研究者の大学>から大きくシフトし、今、この上に<地域社会の大学>となる姿勢が求められています。大学は町の中にその位置を占めます。大学内では、地域の方々、企業、行政、教育の関係者が行き交い、学生・教職員とともに集い、協働連携する営みが展開されなければなりません。「大学の中に街ができる」ゆえんです。地域連携センターは、いわばその出入り口です。「街」づくりのためにも、大学は魅力ある存在となり、地域社会の誇りにしていただく必要があります。今はやりの言葉で言えば、豊饒なコモンズ（入会地）です。

本センターは、地域交流、研究支援の2つの部門からなり、さまざまな交流活動を展開しています。例をあげてみましょう。「生涯学習カレッジ」、「香住っ子ひろば」、「地域防犯パトロール」、高校生を招いての「ノーベル賞受賞者講演会」、各種の「出前授業」などは地域交流部門が、小学生対象の「ひらめき☆ときめきサイエンス」、「新任・昇任教員による講演会」、企業や行政との包括的連携などは研究支援部門が、それぞれ行っています。こうした活動を深化・発展させるとともに、学生と教職員が潜在的に持つ技術・文化力を、各種の包括連携協定を結ぶなかで、発現できることを願います。センターでは、「教員のデータブック」を毎年公表して社会からの要望（call）を待ち、いつでもそれに応えられるよう（response）準備しています。

創立100周年を機に、地域社会とのいっそうの協働、そして本学の研究と発信力の飛躍を期します。寄せられる期待に応えることができるよう、全学あげて取り組む所存です。ご協力とご支援をお願いいたします。



## 地域とともに

令和5年1月15日、福岡市東区の商業施設ガーデンズ千早において、福岡女子大学食・健康学科の学生による宗像市との連携プロジェクト「宗像パンバサダー」が開催されました。内容は、宗像市の旬の食材を使って学生が考案したパンを試作、販売するもので、宗像市の活性化に向けた取り組みの一つでした。当日朝、ワカメ、みかん、さつまいも、アジフライなどを使ったバラエティにとんだパンが並び、あっという間にほぼ完売状態となりました。宗像市とは包括連携協定を締結し、さまざまな連携活動を実施してきましたが、コロナの影響でここ数年停滞気味。この日は、学生が生き生きし、宗像市の関係の方も積極的にご協力いただき、みんなの笑顔に溢れたひさびさに気持ちの良い一日となりました。

一方、この原稿を書いている今も、新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスの流行が重なり、社会では医療が逼迫している状況に変わりはありません。しかしながら、どのような状況下にあっても、地域連携センターは、「地域に根ざした大学をめざして」、積極的に地域連携活動を推進していきたいと考えています。今後も本学へのご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

センター長 国際文理学部 食・健康学科 教授 石川 洋哉



## 地域交流の再活性化の拠点としての大学

異常事態であったコロナ禍における生活が、いつの間にか日常になろうとしています。地域交流においても、今まで実施されていたイベントがないことが当たり前になろうとしていましたが、今年度も「香住っ子ひろば」活動への参加、「LINEで繋がるコミュニケーション」の実施など学生・教職員による多様な社会・地域連携活動を行うことができました。本部門では福女大がポストコロナ社会における地域交流の再活性化の拠点となるような活動を進めていきたいと考えています。地域の皆様からのアイデアも募集しておりますので、当センターまでお気軽にご連絡いただきますようお願いいたします。

副センター長・地域交流部門長 国際文理学部 食・健康学科 准教授 小林 弘司



## 地域と連携した研究活動と成果の情報発信

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が終息せず本学の研究活動にも大きな影響がありました。このような状況下においても、昨年度から計画しておりました新任・昇任教員による研究講演会を7月20日と11月16日の2回にわたり実施することができました。1回目は新任・昇任した教授4名、2回目は新任・昇任した准教授4名による研究紹介が行われ、それぞれの講演会には学内だけでなく地域にお住いの方々にも多数ご参加いただき、本学の研究について情報発信ならびに意見交換を行うことができました。本部門ではこのような研究活動を通して大学の知を地域社会へ還元できるように努めていますので、これからもご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

副センター長・研究支援部門長 国際文理学部 環境科学科 准教授 小崎 智照

# 特集

## 福岡県立香住丘高等学校と 高大連携事業に関する協定を締結

福岡女子大学と福岡県立香住丘高等学校は、相互に連携し、交流を深めることにより、大学及び高校における教育内容を充実させ、学生、生徒の資質向上を図り、双方の教育活動の活性化を目指した高大連携事業に取り組むことを目的に協定を締結し、6月3日(金)に、福岡女子大学向井剛理事長兼学長、香住丘高等学校青木圭子校長出席のもと調印式を行いました。



▲向井学長(左)と青木校長(右)



▲調印式にて

6月8日(水)、6月15日(水)には、高大連携協定の一環として、「環境科学研究講座」を実施しました。この講座は、本学の環境科学科教員が香住丘高校数理コミュニケーションコースの生徒に対し実施するもので、講座の内容は、「ナメクジの学習行動実験」(松尾亮太教授)、「キイロショウジョウバエ唾腺染色体の観察」(猪股伸幸准教授)、「実験で分かるPM2.5の実態」(馬昌珍教授)、「水の硬度を測定してみる」(池田宜弘教授)と、各教員の研究テーマに沿った、授業、実験を行いました。

また、7月15日(金)、10月26日(水)には、香住丘高校の授業を本学教員が見学する授業見学会を実施したほか、大学が主催するセミナーに高校生が参加するなど、活発な交流が行われました。

今後は、これまで行ってきた理系分野における教育的連携に加え、国際的な学びの分野に関する事業を行うなど、より一層の連携を深めていく予定です。



▲松尾亮太教授「ナメクジの学習行動実験」授業、実験の様子



▲馬昌珍教授「実験で分かるPM2.5の実態」授業、実験の様子



# ノーベル賞受賞者 大隅良典先生 講演会

## 「50年の研究を振り返り 次世代を担う皆さんへのメッセージ」開催

日程 2022年12月2日(金) 場所 アクロス福岡イベントホール (福岡市中央区天神)

本学と九州大学は、ノーベル賞を受賞された方を講師にお招きし、研究に関する業績のみならず、探求心や向上心について受賞者ご自身に語っていただくことで、若者に将来への情熱や人間力に結びつけてもらうことを目的とした講演会を、平成23年度より不定期に開催しています。

6回目となる今回は、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典先生にご講演いただき、多くの方にご来場いただきました。

大隅先生は、ご自身の経験や“人のやらないことをやろう”を信条に続けてこられた研究活動に加え、科学とは人類の知の総体・知的好奇心に基づく人間の活動であると説かれ、科学を文化として楽しむ社会になってほしいとの思いを語られました。また、若者に向けて、あふれる情報にまどわされず、自分が興味を抱いた疑問に向き合い、自分の眼で見て確かめることを大切にしてほしいとのメッセージを送られました。

講演後の質疑応答では、高校生の皆さんから多数の質問があがりました。大隅先生にはその一つ一つに丁寧にご回答いただき、盛況のうちに講演会を終了しました。



# 地域交流部門

地域交流部門では、地域との交流を大切にしております。同時に、地域ニーズの把握に努め、本学の持つ知的資源と地域ニーズのマッチング等の事業を展開することで、地域の活性化に寄与してまいります。

## 地域(香住丘校区)との交流

本学が所在する福岡市東区香住丘校区の様々な事業に本学の学生、教職員が協力しています。

### ■香住っ子ひろば・夜の香住っ子ひろば

香住っ子ひろばは、小学校週5日制の導入をきっかけに子どもたちの居場所づくりを目的として行われており、毎月土曜日2~3回、主に香住丘公民館にて実施されるプログラムに本学の学生がボランティア活動の一環として参加しています。

夜の香住っ子ひろばは、公民館が月に一度実施する地域住民を対象に夕食を提供する取り組みで、学生は主に給仕や盛り付け等に従事しています。



遠足（グリッピの森）



お料理教室



夜の香住っ子ひろば



餅つき

### ■夜間合同パトロール

校区の安全安心のため、毎月第3金曜日午後8時から合同パトロールが行われています。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、学生と教職員が参加しました。

香住丘校区自治協議会、同青少年育成連合会、また地域有志の方々とともに校区の防犯に努めています。



### ■キャンパスイルミネーション

12月1日、キャンパスのオープン化を推進し、地域の方々とより一層の交流を図ることを目的にキャンパスイルミネーション点灯式を行いました。キャンパスメインストリートの桜の木に、淡いピンク色のイルミネーションが灯り、“冬の桜”が満開になりました。

また同日、2023年4月に100周年を迎える本学の100周年記念イベントとして、長崎ハウステンボスと香椎照葉の専用劇場を拠点に活動する「歌劇ザ・レビュー HTB」の皆様による特別公演を開催しました。歌劇ザ・レビュー HTBのトップスターの方々による鮮やかで華やかな舞をたくさんの地域の方々とともに楽しみました。大変寒い中、ご参加いただきました方々に感謝申し上げます。



キャンパスイルミネーション



イルミネーション点灯式  
向井学長挨拶



香住丘校区自治協議会  
中山一男会長ご挨拶



子どもたちにお菓子のプレゼント



歌劇ザ・レビューHTBによる  
本学100周年を記念した特別公演

### ■ふれあい健康教室

2020年度より、本学教員と連携協定企業が、香住丘公民館にて健康に関する講座を年3回実施しています。今年度は食中毒予防と免疫力、糖尿病予防と筋力づくり、健康的な照明環境について講演しました。今後も地域の皆様の健康づくりにお役立ていただける講座をお届けしていきます。

#### 第1回 「食中毒に負けない生活と 体調管理と免疫力について」



小林弘司准教授



大塚製薬株式会社

#### 第2回 「糖尿病予防のための 食事と筋肉とタンパク質」



南里明子准教授



株式会社新生堂薬局  
によるインボディ測定

#### 第3回 「健康的な 照明環境」



小崎智照准教授

## 他機関との連携

■ 地域連携センター学生委員×香椎浜公民館 「LINEで繋がるコミュニケーション」

本学には、教職員とともに大学運営に関与し、活動を通して自分色のリーダーシップを培う「学生委員」という制度があります。今年度、地域連携センター学生委員として活動する学生が香椎浜公民館と連携し、シニア世代向けのLINE講座を実施しました。コロナ禍では、コミュニケーションが希薄となり、特にICTツールに不慣れなシニア世代は、家族や地域の仲間との繋がりが希薄になってしまいます。本講座では、そういった課題を解決するため、学生たちが自ら企画・立案し、全3回の講座を運営しました。参加者の方からは「素晴らしい講義で感動した」、「とても楽しい講習会で毎回楽しみ」、「講座をきっかけに学生と交流が出来て嬉しい」などの声が寄せられ、大変好評を博しました。

LINEで繋がる  
コミュニケーション

日 程 9月24日(土)、12月17日(土)、2月12日(日) 全3回

場所 香椎浜公民館 講堂

講 師 浦 温美、篠島 史華、小森 彩音、田浦 歩実、長井 雛子

参加者 香椎浜校区の65歳以上の方10名



《参加した学生の声》

## 国際教養学科3年 筧島 史華さん



企画から実行まで学生が主体的に関わることができ、普段の大学生活だけではできない経験でした。また、講師として教える中で、地域のお年寄りの活力や何歳になっても学ぼうとする姿勢に感動し、人生において好奇心を失わないことの大切さを学びました。

## 国際教養学科1年 長井 雛子さん

自分よりも年配の方との交流ということで、最初はとても緊張しました。しかし、館長さんをはじめとして参加の方々が温かく迎えてくださり、終始和やかに講座を行うことができました。第一回目の講座の時、私とお話ししていた方に「若返った気がする」と仰っていただいたのがとても嬉しかったです。

## ■ UR都市機構との取り組み

～UR香椎若葉団地内コミュニティライブラリー「わかぼん」開設～

本学と独立行政法人都市再生機構九州支社（UR都市機構）との取り組みとして、UR賃貸住宅では九州初となる「コミュニティライブラリー」をUR香椎若葉団地に開設しました。

「コミュニティライブラリー」は、人と人を本を通して繋ぐ場所を指しており、今回開設したコミュニティライブラリーも「本とアートで繋がろう」をキーワードに、団地にお住いの方からの寄贈本や福岡女子大学美術館と連携したアート作品の展示やイベントなどを通して、お住まいの方同士の繋がりや外出を促すきっかけになることを目指しています。

9月4日(日)のオープニングイベントでは、本学の学生がレイアウトした天井まである書架のお披露目に加え、学生が企画した住民参加型のワークショップも開催しました。

ライブラリーの名称を考えるワークショップでの投票の結果ライブラリーの名称が「わかほん」(香椎若葉+本)となり、今後、学生らのデザインによる館銘板の作成も行う予定です。



#### ■ むなかた大豆プロジェクト「枝豆収穫祭」への参加

日 程 10月23日(日)

「むなかた大豆プロジェクト」とは、宗像市内の耕作放棄地を活用して「宗像大豆」を作り、大豆を利用した商品開発・販売を行うという、宗像市内の有志によるボランティア活動です。

本学と宗像市は包括連携協定を締結しており、その活動の一環として、2019年度より本学学生も毎年参加しているもので、今年度も学生4名が参加しました。



## 東部地域大学連携

福岡市東区に位置する福岡女子大学、九州産業大学、福岡工業大学は、平成23年11月に連携協定を締結し、相互の教育・研究の一層の進展と地域社会の発展に寄与することを目的に活動を行っています。

### ■ 東部地域大学連携「東区認知症に優しいまちづくり事業」への参加

- 認知症サポーター養成講座・ユマニチュード®講座：10月22日（講師：おとなりさん。南片江 金子 慎一郎氏）
- 認知症声掛け訓練：11月26日（香椎校区・3大学合同@九産大キャンパス）

福岡市東区では「認知症に優しいまちづくり事業」を推進しています。この取り組みを若い世代にも広げるべく、東部地域大学連携では、令和3年度から東区と連携し、大学生向けの認知症講座を開催しています。2年目となる今年度も、認知症を学ぶ2つの講座を各大学で実施しました。また、各講座を受講した3大学の学生が集まり、香椎校区の地域住民の方々と共に、実際に困っている認知症の方に声をかける練習を行う「声掛け訓練」イベントにも参加しました。



#### 《参加学生の声》

食・健康学科4年 平井 愛梨さん

声かけ訓練では、講座で学んだことを生かしながら、対象者の方の反応を見つつ、臨機応変に対応することを難しく感じました。地域の方の協力を得ながら学びを深めるという貴重な経験ができ、とても楽しかったです。

### ■ 東区芸術文化祭「東部地域大学連携合同作品展」の開催

日 程 10月2日～12日（華道部は10月8日から3日間展示）

場 所 なみきスクエア1F ひまわりひろば

東区の魅力ある芸術文化を多くの住民の方に触れていただくためのイベント「東区芸術文化祭」に東部地域大学連携の合同作品展を出展しました。本学からは、華道部と書道部がそれぞれ作品を出展しました。華道部からは、生花やハロウィンをモチーフにしたフラワー・アレンジメントが出展され、書道部からは様々な書体による書が展出されました。会期中は、478名という大変多くの地域住民の皆様が来場し、ご好評いただきました。本学の学生、サークルの日頃の活動の成果を発表する大変良い機会となりました。



#### 《参加学生の声》

華道部 部長 平木 優果さん

今年はフラワー・アレンジメントのモチーフがハロウィンでした。先生方、卒業生、部員たちを含む多くの方々の協力があり素敵な空間を作ることができました。ありがとうございました!

書道部 部長 日野 菜々子さん

部員全員、一生懸命作品作りに取り組みました。自分の作品を見てもらう機会は貴重であり、私たちの書の成長にもつながったと思います。今回参加することができて本当に良かったです。

### ■ YOUTH FESTA HIGASHI2022(東区こども青少年文化祭)へしょくぼねっとが食育ワークショップを出展

日 程 11月27日 場 所 なみきスクエア

子どもを対象とした様々な体験の場を提供するイベント「YOUTH FESTA HIGASHI 2022」に本学の食育ボランティアサークル「しょくぼねっと」が「食育かるたと野菜カード作り」というテーマでワークショップを出展しました。小学生を中心に延べ35名が参加し、参加者は、本学オリジナルの食育かるたや野菜スタンプを使った野菜カード作りを通して、楽しみながら食や健康について学びました。



#### 《参加学生の声》しょくぼねっと代表 食・健康学科3年 餌取 遥さん

子どもたちが一生懸命カードを作成している姿や元気よくカルタを行う姿を見ることができ、とても楽しく貴重な経験になりました。また、野菜の断面や食育カルタの内容に興味持ってくれる子もいて、楽しく「食」について学んでくれたことに喜びを感じました。

### ■ チャリティーイベント「福岡サンタウォークin 千早」

日 程 12月11日

参加費用の一部が福岡市立こども病院に寄付されるチャリティーイベントに参加しました。当日は、サンタの衣装を着て、千早の街を行進しました。



## ■ 東部地域大学連携の活動に対して、東警察署から感謝状が贈呈されました！

東部地域大学連携では、福岡県や福岡県警、東警察署と連携し、防犯ボランティア活動に積極的に取り組んでいます。今年度は各種防犯キャンペーンへの参加のほか、学生発の取り組みとして、3大学の学生が協力して防犯動画の制作に取り組み、完成した防犯動画「その油断、危険です！」は福岡県警の公式YouTubeチャンネルへアップされました。

これらの活動が評価され、10月12日には、防犯動画制作に対する感謝状が東警察署より贈呈され、1月24日には、「東区民に対する防犯意識向上に貢献したもの」として東警察署長から感謝状が贈呈されました。

### ● 東警察署から防犯動画制作に対する感謝状贈呈（10月12日地域安全フォーラム@九産大）



↑ 学生が制作した防犯動画「その油断、危険です！」は福岡県警公式YouTubeチャンネルからご覧いただけます。

（1月24日@東警察署）



### 《参加学生の声》

国際教養学科3年 浦 温美さん



3大学で協力して行った防犯動画の制作やその活動について表彰していただけて、驚きつつも嬉しく思っています。制作の途中では大変な部分もありましたが、オンラインツールを活用しながら、また東警察署の方にサポートしていただきながら、動画を完成させられたことはとても良い経験になりました。

## ■ 福岡県警・東警察署と連携した防犯キャンペーン

- 性犯罪防止キャンペーン（7月13日@香椎駅）
- 打ち水イベントwith性犯罪根絶キャンペーン（7月21日@博多駅）

性犯罪被害が多発する夏場に、駅を利用する女性を中心に声掛け、防犯グッズの配布を行い、一層の防犯意識の啓発を図りました。



### ● 東警察署年末年始特別警戒出動式（12月2日@筥崎宮）

事件や事故が増える年末年始を前に、防犯意識の高揚及び各種治安の強化を目的として行われた特別警戒出動式に参加しました。



## ■ 福岡県遊技業協同組合からの寄附金贈呈式（5月24日@グランドハイアット）

福岡県遊技業協同組合様から学生防犯ボランティア団体の活動を支援するための寄附金の贈呈を受けました。



## ■ 令和4年度「福岡ながラ！防犯SHOW」大学生防犯サークル対抗クイズ（1月22日）

東部地域大学連携を代表し、国際教養学科2年の黒木由菜さん、永松明莉さんが出場し、見事優勝しました！



↑ 見事優勝！(同率1位)

様々な防犯活動に参加しましたが、どの活動もこれからの生活に役立つものになると思います。これらの活動を通して大学生や地域の方々と交流できたことが、私にとって何よりいい経験になりました。

### 《参加学生の声》

国際教養学科2年 黒木 由菜さん





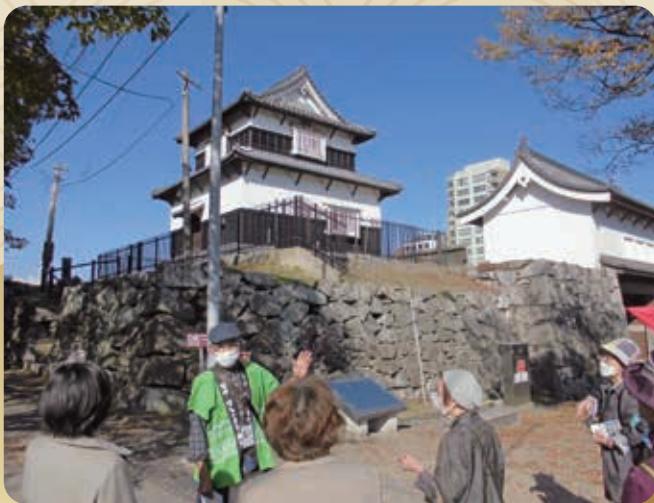
博多発祥の芸能～筑前琵琶の世界～



ろうそく能

## 生涯学習カレッジ2022 全プログラム

- 第1回 「開講式」「生涯学習カレッジで何を楽しむか」「感性を磨く どこでも美術館」
- 第2回 【九州市民大学】  
「やれる理由こそが着想を生む～はやぶさ式思考法～」
- 第3回 「今右衛門の色鍋島の伝統」
- 第4回 「お菓子で繋ぐ不思議なご縁」(株式会社千鳥饅頭総本舗)
- 第5回 「料亭生簀魚類学」(博多料亭 稚加榮)
- 第6回 【九州市民大学】  
「井田勝大・九響が贈るバレエ音楽の魅力と歴史」
- 第7回 「博多発祥の芸能～筑前琵琶の世界～」
- 第8回 【九州市民大学】「国際情勢と日本外交」
- 第9回 「ろうそく能」(能「半蔀」・狂言「瘦松」)
- 第10回 福岡の歴史①「博多総鎮守 櫛田神社の歴史」
- 第11回 福岡の歴史②「博多遺跡群の地形的変遷からみる博多の歴史」
- 第12回 福岡の歴史③「福岡城跡をたずねて」
- 第13回 「修了式」「意見交換会」「クロージングパーティ」



福岡城跡をたずねて

## 福岡女子大学

## 生涯学習カレッジ2022

受講者と大学が共に学ぶアクティブな学習の場として平成27年度にスタートした生涯学習カレッジは、“感性”を学習の柱とし、学びの中に「遊び心」を取り入れ、キャンパス、学外をフィールドに学び合うプログラムです。2022年度はテーマを「過去を耕し 未来へつなぐ」と掲げ、62名の受講生は本物の芸術、食文化、歴史に触れ、「学びプラスα」の体感型プログラムに楽しみながら取り組みました。



博多総鎮守 櫛田神社の歴史



今右衛門の色鍋島の伝統 十四代今泉今右衛門先生



感性を磨く どこでも美術館  
環境科学科・若竹雅宏准教授



博多料亭 稚加榮

# 2022年度 公開講座

地域の皆様へ“生涯学習の場”を提供するため、毎年各教員の専門領域をわかりやすく紹介する講座を実施しております。今年度は「健康」「環境」「経済」「文学」「英語」をテーマに、専門的な内容や日々の生活にもお役立ていただける内容をお届けしました。

## 「ナメクジは考える」 松尾 亮太 教授



ナメクジの知られざる生態について、動画を提示しながら解説しました。受講生はその「脳力」に驚き、講座に聞き入っていました。

## 「食と健康を考える」 石川 洋哉 教授



食品とその栄養、効果について解説しました。受講生からは「バランスの良い食事を心がけることの大切さを再認識しました」との声が聞かれました。

## 「水でつながる阿蘇の草原と福岡市民 －消失の危機にある阿蘇の草原を救うには？－」 竹内 亮 講師



阿蘇の草原が直面する新たな環境問題について解説し、自然を守るために直接的・間接的にできることを紹介しました。

## 「楽しく食べていつまでも健康に ～かむこと、飲み込むことが難しくなってきたあなたへ～」 大橋 佐登子 助手



受講生の食生活にお役立ていただける具体的な献立メニュー、かむこと、飲み込むことが難しくなってきた際の対策方法などの情報を伝えました。

## 「古文書で見る江戸時代の京都—朝廷と京都—」 スウェン ホルスト 教授



会場内に古文書を展示し、それらについて詳しく解説しました。専門的な内容を含んでいましたが、皆さん、熱心に耳を傾けていました。

## 「グローバル時代の「開発」と「豊かさ」を考える －日本と世界－」 パスマシリ ジャヤセーナ 教授



従来の経済成長ではない「開発」とは何か、これからのかの「豊かさ」とは何か、統計資料を示しながら解説し、考えました。

## 「おもてなし英語（初級）」 田上 優子 講師



身近なテーマを題材に、発話練習やペアワークをしたり、実践を交えた講座をお届けしました。

## 「A Tour of Some of the UK's Beautiful Places」 Nigel STOTT 教授



2回にわたりお届けした本講座では、英国内の観光地をその歴史も交えて紹介しました。すべて英語での講座でしたが、受講生からは「本当に旅行している気分になりました。」等の声が聞かれました。

公開講座に運営サポーターとして参加した 地域連携センター学生委員より

私は、大学外の方と交流する機会を得られると思い応募した学生委員の活動として、6月に行われた公開講座の運営サポートをさせていただきました。司会に関しては、これまでマイクで話す機会があまりなく緊張しましたが、ご参加いただいた方の温かくやさしい雰囲気に助かれ、無事に講座を終えることができました。受付の際は、おひとりずつお名前をお伺いしたり、座席のカードをお渡しする際のお声掛けにも気を配つたりしました。自分が成長する機会になったと同時に、地域の方とコミュニケーションをとる良い機会となりました。



国際教養学科1年  
坂上 瑠菜さん

# 研究 支援部門

研究支援部門では、大学の知的資源を活用し、地域社会の発展に貢献するため、企業や公的機関との共同研究のサポートや、各種セミナー、技術交流会などを実施し、産学官の連携を推進します。

## ■新任・昇任教員による講演会

2022年度に福岡女子大学に新たに着任した教員及び教授、准教授へ昇任した教員による自身の研究についての講演と、特別企画として職員による研修の成果発表を行いました。今年度は7月、11月と2回に分けて開催しました。

### 第1回 対面開催

日程 7月20日(水)

参加者  
85名

- 講演1 新任 女性リーダーシップセンター 品川 啓介 教授  
タイトル「実務家教員のイノベーション論」

- 講演2 教授昇任 國際教養学科 村長 祥子 教授  
タイトル「古英語散文の文献学的研究」

- 講演3 教授昇任 環境科学科 豊貞 佳奈子 教授  
タイトル「水まわり住宅設備の節水化と水使用量・CO<sub>2</sub>排出量変化」

- 講演4 教授昇任 食・健康学科 舟木 淳子 教授  
タイトル「調理・加工に酵素処理等を適用した食品物性改変」

#### 2021年度職員研修 企画能力養成研修チームによる発表

タイトル「福女大ファン獲得プロジェクト～授業料無償化&卒業後進路∞～」



### 第2回 ハイブリッド開催

日程 11月16日(水)

参加者  
102名

- 講演1 新任 國際教養学科 柴田 聰 准教授  
タイトル「組織の適応能力が戦略的志向性に及ぼす影響についてのマルチレベル分析」

- 講演2 新任 國際教養学科 近藤 洋平 准教授  
タイトル「前近代のイスラム社会における教育・学習」

- 講演3 准教授昇任 國際教養学科 櫻木 理江 准教授  
タイトル「組織の垣根を超えた越境学習の効果」

- 講演4 准教授昇任 食・健康学科 梅木 陽子 准教授  
タイトル「健康的な食生活実践のための食育と食環境整備」



## ■研究奨励交付金「研究成果パネル展示(ポスターセッション)」

展示期間 6月9日(木)～7月29日(金)

展示場所 福岡女子大学 図書館棟1F

本学では、学術研究費を効果的に活用し、本学の特長を活かすための研究を支援することを目的として、「研究奨励交付金制度」と呼ばれる学内の競争的研究資金制度を設けています。本学が重視する分野での研究や、複数の教員からなる研究プロジェクト「リサーチコア」の研究など、2021年度の本制度に採択された研究の研究成果をパネルに取りまとめ、学内に広く公開しました。また同時に、学外の皆様に向ても地域連携センターのHPでパネルデータを公開しております。本学では「アカデミック・コミュニティ」の形成に向けて、今後も研究や取り組みの成果を広く皆様に発信してまいります。



## ■ひらめき☆ときめきサイエンス

「ナメクジは賢い！～ナメクジの学習行動と脳のしくみ～」

開催日 7月28日(木) 8月4日(木)

参加者  
7月28日  
11名

参加者  
8月4日  
9名



## ■ 外部資金獲得セミナー（オンライン開催）

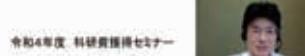
「科研費の最近の動向と獲得向上への情報提供～学外セミナーで得た情報を基に～」

参加者  
教職員  
49名

開催日 8月8日(月)

講 師 研究支援部門長 環境科学科 准教授 小崎 智照

科学研究費採択率向上に向けた取り組みとして「外部資金獲得セミナー」をオンラインで開催しました。今年度は、基盤研究Bや挑戦的研究（萌芽）など難易度の高い科研費研究種目の採択実績をもつ環境科学科小崎先生に講演いただきました。講演では、科研費の応募数や採択率といった最近の動向から、採択につながる申請書作成のポイント、不採択時の審査結果を活用した分析手法まで分かりやすく、ご説明いただきました。昨年度を上回る多くの教職員が参加し、大変好評を博しました。



令和4年度、科研費獲得セミナー  
(文部科学省)科研費の最近の動向と獲得向上への情報提供

～学外セミナーで得た情報を基に～

環境科学科

小崎智照

## ■ Web3.0の世界戦略を支援する企業

Animoca Brands KKによるセミナー

参加者  
14名

「Web3.0がもたらす世界と、Web3.0時代に必要とされる人材」

開催日 10月14日(金)

講 師 Animoca Brands KK 共同創業者兼CIO 岡澤 恭弥氏



福岡市の国際金融アンバサダーを務めるAnimoca Brands KK 共同創業者兼CIOの岡澤恭弥氏による Web 3.0（仮想通貨・NFTといったブロックチェーン技術によって実現される次世代の分散型インターネットの総称）に関するセミナーを開催しました。

国内で不足するWeb 3.0人材を福岡から輩出したいとの思いから、国際感覚を持つ本学学生に向けて開催されたもので、岡澤氏によるご講演の後には、学生との意見交換会が行われ、貴重な機会となりました。

## ■ 第一生命保険株式会社・財務省福岡財務支局による資産形成・金融リテラシーに関するセミナー

参加者  
6名

開催日 10月21日(金)

第1部は、「すごろく形式のゲームをとおして楽しく学べるライフイベント・リスク・消費者被害」と題し、第一生命保険株式会社が制作した消費者教育・金融保険教育教材「ライフサイクルゲームⅢ～生涯設計のススメ～」を使い、金融知識を遊びながら学びました。



第一生命保険㈱によるすごろく形式ゲーム



財務省福岡財務支局による講演

第2部は、「これから的人生における資産形成と金融トラブル防止について」と題し、財務省福岡財務支局による、支出管理、預貯金・投資といった資産形成についての知識と、金融トラブルの防止、特に若者に多いキャッシュレス決済やマッチングアプリから広がる特殊詐欺などの事例についてご講演いただきました。

## ■ 知的財産権セミナー（オンライン開催）

「大学教職員のための知的財産管理の基礎」

参加者  
教職員  
53名

開催日 3月6日(月)

講 師 山口大学 大学研究推進機構

知的財産センター副センター長 生田 容景 准教授

本学教職員の教育・研究における知的財産権に関する知識の向上等を目的に「知的財産権セミナー」をオンラインで開催しました。今年度は山口大学で知的財産センターの副センター長を務められている生田容景准教授をお招きし、大学教職員に必要な知的財産権に関する基礎知識について、分かり易くお話しいただきました。

R4年度 福岡女子大学 知的財産権セミナー  
「大学教職員のための知的財産管理の基礎」

令和4年3月6日(月) 13:00~14:30  
講師：山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター  
副センター長 生田 容景 准教授



## ■ 令和4年度 共同研究・受託研究等に係る外部資金獲得の状況

令和5年3月24日時点

種 別	件 数	金 額
共同研究	13	850,000
受託研究	5	1,674,300
寄附金 ※研究助成含む	11	5,756,000
科学研究費助成事業（日本学術振興会）研究代表者分	35	32,600,000
科学研究費助成事業（日本学術振興会）研究分担者分	27	6,572,146
計	91	47,452,446

## 出前講義等

近隣の中学校や高校を中心に、本学の教員が高校にお伺いする出前講義等を実施しています。

### 1. 出前講義

\*同じ開催日・学校でも、受講生が異なる場合は、開講回数に応じて記載しています。

No.	開催日	学校名	学年	人数	教員名	内容
1	6月 3日(金)	(オンライン開催) 山口県立山口中央高等学校	3	15	辻 信一 教授	なぜ、わが国は原子力発電を推進したのか
2	7月 1日(金)	九州国際大学付属高等学校	1・2・3	51	スウェン ホルスト 教授	移民国家ドイツ
3	7月 21日(木)	筑紫女子園高等学校	1	31	宮川 美佐子 教授	名作書き直す
4	7月 21日(木)	筑紫女子園高等学校	1	30	徐阿貴 准教授	日本は「移民国家に」なるのか?
5	7月 25日(月)	福岡県立香椎高等学校	1・2	12	大坪 蘭子 助手	遺伝子組換え植物(作物)について
6	7月 26日(火)	福岡県立香椎高等学校	1・2	21	櫻木 理江 准教授	なぜその製品を買ってしまうのか
7	7月 28日(木)	明治学園高等学校	1・2	34	ジャヤセーナ パスマシリ 教授	グローバル時代の「開発」と「豊かさ」を考える—日本と世界—
8	8月 23日(火)	八女学院高等学校	1・2	23	大久保 順子 教授	江戸時代の「怪談」に学ぶ
9	8月 24日(水)	久留米信愛高等学校	1・2	55	和栗 百恵 准教授	そこにWHYはあるんか?~大学で学ぶ意義~
10	8月 25日(木)	福岡県立小倉西高等学校	1・2・3	4	梅木 陽子 准教授	管理栄養士の仕事とは
11	8月 30日(火)	福岡県立山門高等学校	2	7	庄山 茂子 教授	色彩と印象・イメージについて
12	9月 16日(金)	福岡県立春日高等学校	2	21	櫻木 理江 准教授	なぜその製品を買ってしまうのか
13	9月 16日(金)	福岡県立春日高等学校	2	11	吉村 利夫 教授	身の回りのプラスチックについて
14	10月 20日(木)	福岡県立朝倉高等学校	2	15	石川 洋哉 教授	食と健康を考える
15	10月 21日(金)	福岡県立新宮高等学校	2	18	石川 洋哉 教授	食と健康を考える
16	10月 21日(金)	福岡県立新宮高等学校	2	22	ジャヤセーナ パスマシリ 教授	グローバル時代の「開発」と「豊かさ」を考える—日本と世界—
17	10月 28日(金)	長崎県立長崎南高等学校	1・2	480	庄山 茂子 教授	環境デザイン学に関する研究紹介
18	11月 1日(火)	西南学院高等学校	2	10	スウェン ホルスト 教授	移民国家ドイツ
19	11月 16日(水)	筑紫女子園高等学校	1	35	白新田 佳代子 講師	経済効果とは何か
20	11月 28日(月)	九州国際大学付属高等学校	1・2	17	太田 雅規 教授	75歳定年制に向けての課題
21	11月 29日(火)	福岡県立嘉穂高等学校	2	22	坂本 浩一 教授	日本語とコミュニケーション
22	11月 29日(火)	福岡県立嘉穂高等学校	2	18	吉村 利夫 教授	身の回りのプラスチックについて

### 2. 近隣高等学校との連携 福岡県立香住丘高等学校 数理コミュニケーションクラス2年生

#### ◆ 環境科学研究講座 (会場: 福岡女子大学 研究棟)

	開催日	教員名	内容
1	6月 8日(水)	松尾 亮太 教授	ナメクジの学習行動実験
		馬 昌珍 教授	実験でわかるPM2.5の実態
2	6月 15日(水)	猪股 伸幸 准教授	キイロショウジョウバエ唾腺染色体の観察
		池田 宜弘 教授	水の硬度を測定してみる

#### ◆ 委員会等 (会場: 福岡県立香住丘高等学校)

	開催日	教員名	内容
1	7月 1日(金)	向井 剛 学長	第1回生徒課題研究発表会及び第2回SSH運営指導委員会
2	12月 16日(金)	向井 剛 学長	第2回生徒課題研究発表会及び第2回SSH運営指導委員会

## 福岡女子大学 研究奨励交付金

研究奨励交付金は、本学の学術研究費を中期計画等に基づく大学の活動の観点から効果的に用いるために設けられた競争的資金で、学術研究費のうちに占める割合を30%に設定しています。

募集する研究は、その性格によって以下の研究A、研究B、研究Cの三種に分けています。

○研究A: 本学が重視する分野での研究。研究代表者が応募中(継続中)である「科研費(文部科学省または日本学術振興会の科学的研究費助成事業)」の研究課題」と「交付金の研究課題」との関連の有無は問わない。

○研究B: 本学の研究者が科研費を獲得できるように支援することを目的にする。研究代表者が応募中である科研費と基本的に共通する研究計画によって、重ねて本交付金に応募する研究である。

○研究C: ①本学の研究、教育に関するプロジェクトについて、その推進・発展に必要な高額な機器の購入を支援する。  
②本学の研究、教育に関するプロジェクトについて、その成果を出版することが研究、教育の推進・発展に有効と認められるとき、それを支援する。

### 2022年度研究奨励交付金について

◆予算額: 19,000千円(研究A: 8,000千円、研究B: 5,000千円、研究C: 7,000千円を目安)

◆応募期間: 2022年3月16日(水)~5月6日(金)

◆決定通知: 2022年6月13日(月)

◆審査結果(交付実績)

区分	応募数	採択数	採択金額(総額)	備考
研究A	5	5	6,000千円	5件ともにリサーチコア研究
研究B	8	7	4,000千円	
研究C	4	4	8,500千円	
計	17	16	18,500千円	

## 2022年度 公開講座・講演会等 開催一覧

2022年4月1日～2023年3月31日に地域連携センター事業として開催した講座・講演会・研修等についてご報告します。

事業 名称	講演概要	講座 数	延べ 受講者数
公開講座	<b>2022年度公開講座（全9回）</b>	9	38 60 37 39 42 33 17 26 26
	① 5月11日(水) ナメクジは考える		
	② 6月15日(水) 食と健康を考える		
	③ 7月12日(火) 水でつながる阿蘇の草原と福岡市民 —消失の危機にある阿蘇の草原を救うには?—		
	④ 9月21日(水) 楽しく食べていつまでも健康に ～かむこと、飲み込むことが難しくなってきたあなたへ～		
	⑤ 10月19日(水) 古文書で見る江戸時代の京都—朝廷と京都—		
	⑥ 11月 1日(火) グローバル時代の「開発」と「豊かさ」を考える—日本と世界—		
	⑦ 11月11日(金) おもてなし英語（初級）		
	⑧ 6月 4日(土) A Tour of Some of the UK's Beautiful Places Nigel STOTT		
生涯学習カレッジ	<b>「生涯学習カレッジ2022 テーマ：過去を耕し 未来へつなぐ」（全13回）</b>	13	516
	第1回 5月28日(土) 開講式		
	「感性を磨く どこでも美術館」		
	向井 剛		
	若竹 雅宏		
	第2回 6月14日(火) やれる理由こそが着想を生む ～はやぶさ式思考法～（九州市民大学）		
	川口 淳一郎		
	第3回 7月 9日(土) 今右衛門の色鍋島の伝統		
	十四代今泉今右衛門		
	第4回 7月30日(土) お菓子で繋ぐ不思議なご縁		
	原田 浩司		
	第5回 8月 6日(土) 料亭生簀魚類学		
	田原 義太慶		
シンポジウム	第6回 9月12日(月) 井田勝大・九響が贈るパレエ音楽の魅力と歴史（九州市民大学） 井田 勝大	1	516
	第7回 9月17日(土) 博多発祥の芸能～筑前琵琶の世界～		
	寺田 蝶美		
講演会	第8回 10月12日(水) 国際情勢と日本外交（九州市民大学）	1	11
	藪中 三十二		
	第9回 11月 7日(月) ろうそく能		
	プレトーク		
	狂言「瘦松」		
	吉住 講		
	能 「半蔀」		
	山崎 正道		
	宝生 欣哉		
	第10回 11月12日(土) 福岡の歴史①博多総鎮守 櫛田神社の歴史		
研修ほか	阿部 憲之介	1	11
	第11回 11月19日(土) 福岡の歴史②博多遺跡群の地形的変遷からみる博多の歴史 本田 浩二郎		
	福岡市経済観光文化局		
	文化財活用部埋蔵文化財課 調査第1係長		
講演会	第12回 11月26日(土) 福岡の歴史③福岡城跡をたずねて	1	102
	福岡市観光案内ボランティア 公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー		
	第13回 12月10日(土) 修了式 意見交換会 クロージングパーティ		
	梶山 千里		
外部資金獲得セミナー	向井 剛	1	706
	福岡女子大学最高顧問		
知的財産権セミナー	合 計	28	1,840
	福岡女子大学理事長・学長		

# 福岡女子大学2023年度公開講座

会場：地域連携センター 2階 セミナー室2 ※変更する場合がございます

受講料：各回 500円 ※高校生無料

講座番号	日程	タイトル	概要	講師
1	6/3 (土) 13:30～15:00	A Comparison of the Education Systems in the UK and Japan	In this lecture, the speaker, who has been involved in education in the UK and Japan for many years, will discuss with you the differences (positive and negative) between these educational systems.	Nigel STOTT (言語教育センター教授)
2	6/21 (水) 10:00～11:30	食の安全を守る研究最前線—危険な細菌みつけた！—	衛生環境が改善している現在においても、食中毒の発生は後を絶ちません。本講座では、日本で発生している食中毒のなかでも細菌を原因とする食中毒について、家庭ができる予防法から制御法に関する最新研究まで様々な情報を紹介します。	小林 弘司 (食・健康学科准教授)
3	7/12 (水) 13:00～14:30	イノベーションってなんだろう？—アイデア発想～ビジネスモデルまで、一番やさしい新規事業の作り方—	新規事業・社内起業、ビジネスモデルってどんなもの？聞いてみたい、でも専門家はややこしそうで、と悩んでいませんか？一番やさしい講義でセンスだけに頼らず新規事業を生み出していくエッセンスを解説します。	品川 啓介 (女性リーダーシップセンター教授)
4	7/26 (水) 10:00～11:30	人間の嗅覚による「におい」の数値化	悪臭問題を例に挙げ、においを定量的に表す必要性について紹介します。実際ににおいを嗅ぐ体験を通して、においを数値化する難しさや課題について考えます。	藤岡 薫 (環境科学科准教授)
5	9/20 (水) 10:00～11:30	食に関する健康情報とうまく付き合う	食事や栄養に関する情報は巷に溢れていますが、正しいかどうか疑問なものが多く含まれています。この講座では情報を取捨選択する際に考慮すべき視点や、忘れ去られがちな個人差の問題等について考えます。	濱田 俊 (食・健康学科教授)
6	10/18 (水) 11:00～12:30	ジェンダー平等と宗教	現在、国際社会はジェンダー平等の達成に向けた取り組みを進めています。この潮流の中で、日本の、そして世界の宗教集団・団体はどのような活動をしているのでしょうか。その成果と課題を、いくつかの事例から考えます。	近藤 洋平 (国際教養学科准教授)
7	10/31 (火) 14:00～15:30	〈印象〉を描く時代—日本近代の文学と美術—	視覚芸術の歴史はフランス印象派の登場とともに大きく変わった。そして〈印象〉は芸術一般の表現方法として世界中に波及する。日本の湿润の空気感のなかで変容していった〈印象〉や〈感覚〉の美を追いながら、明治大正の文学を見直してみたい。	坂口 周 (国際教養学科准教授)
8	11/25 (土) 13:30～15:00	A Foreigner's Exploration of Kyushu	In this lecture, the speaker, who has lived in Japan for many years and loves Kyushu, will share his favorite places in Kyushu and what he learned there. We would also like to share information and advice from your knowledge and experience.	Nigel STOTT (言語教育センター教授)
9	2024年1/19(金) 15:00～16:30	いま、捕鯨を考える	2019年にわが国は国際捕鯨取締条約から脱退し、商業捕鯨を再開した。本講演では、欧米と日本の捕鯨の歩みを振り返り、両者の捕鯨を巡る考え方の相違を示し、その問題点を皆さんとともに考えます。	辻 信一 (環境科学科教授)

※講座番号1・8は、英検2級以上もしくはそれと同等の英語力をお持ちの方を対象としています。

## 特別講座シリーズ「イギリスの文学と歴史への誘い—作品から時代・社会・思潮を読む」

会場：地域連携センター 2階 セミナー室2 ※変更する場合がございます 受講料：各回 500円 5回まとめて 2,000円

講座番号	日程	タイトル	概要	講師
1	6/16 (金) 13:20～14:50	『アーサー王物語』誕生の社会的背景	中世の末期（1400年代半ば）に、なぜ騎士道物語しかもアーサー王伝説が再生を見たのか。その時代的、政治的な背景を考察します。	向井 剛 (福岡女子大学学長)
2	6/30 (金) 13:20～14:50	驚異の少女ジュリエット—『ロミオとジュリエット』を読み直す	『ロミオとジュリエット』『オセロー』が当時、歴史的・社会的にいかに常軌を逸脱した演劇であったかを考察します。	太田 一昭 (元福岡女子大学大学院非常勤講師、九州大学名誉教授)
3	7/7 (金) 13:20～14:50	エリザベス朝宮廷文人サー・フィリップ・シドニーの時代と文学	エリザベス一世治下のイングランドで、宮廷文人として一家言を出したシドニーの恋愛ソネット詩集『アストロフィルとステラ』を読み解き、時代と文化の諸相を考察します。	村里 好俊 (元福岡女子大学教授、熊本県立大学名誉教授)
4	7/14 (金) 13:20～14:50	バイロンとナポレオン—激戦の時代における文学	革命と激動の時代において、文学がどのような立場にあったかを、バイロンの作品を通して論じます。	田吹 長彦 (元福岡女子大学特任教授、北九州市立大学名誉教授)
5	7/21 (金) 13:20～14:50	19世紀社会と『狐物語』の再受容	中世ヨーロッパに流布した『狐物語』が19世紀半ばに再び蘇り、ロンドン博覧会のお土産にまでになる。19世紀の社会的思潮が作品の改ざんに影響を与えた様子を観察します。	都地 沙央里 (福岡女子大学言語教育センター講師)

### 【申込方法】

- E-mail、Fax、ハガキのいずれかに ①希望講座番号 ②氏名(フリガナ) ③住所 ④電話番号 ⑤年齢 ⑥Fax番号(Faxでお申込みの方)  
⑦E-mailアドレスをご記入の上、地域連携センターまでお申込みください。お電話でも受け付けております。  
※受講票は発行しておりません。

センター内託児室にて、託児サービスを行っています。(業者委託／先着5名)

利用をご希望の方は、講座開催日の10日前(土日祝除く)までに、福岡女子大学地域連携センターへお電話ください。

### お申込み・お問い合わせ

福岡女子大学 地域連携センター

〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘1-1-1

TEL : 092-661-2728 (直通) / 092-661-2411 (代表) Fax : 092-692-3220

E-mail : c-renkei4@fwu.ac.jp URL : http://www.fwu.ac.jp/collaboration/

★ご提供いただいた個人情報は、公開講座等の実施・運営、福岡女子大学からのご案内等に使わせていただき、他の目的には使用いたしません。